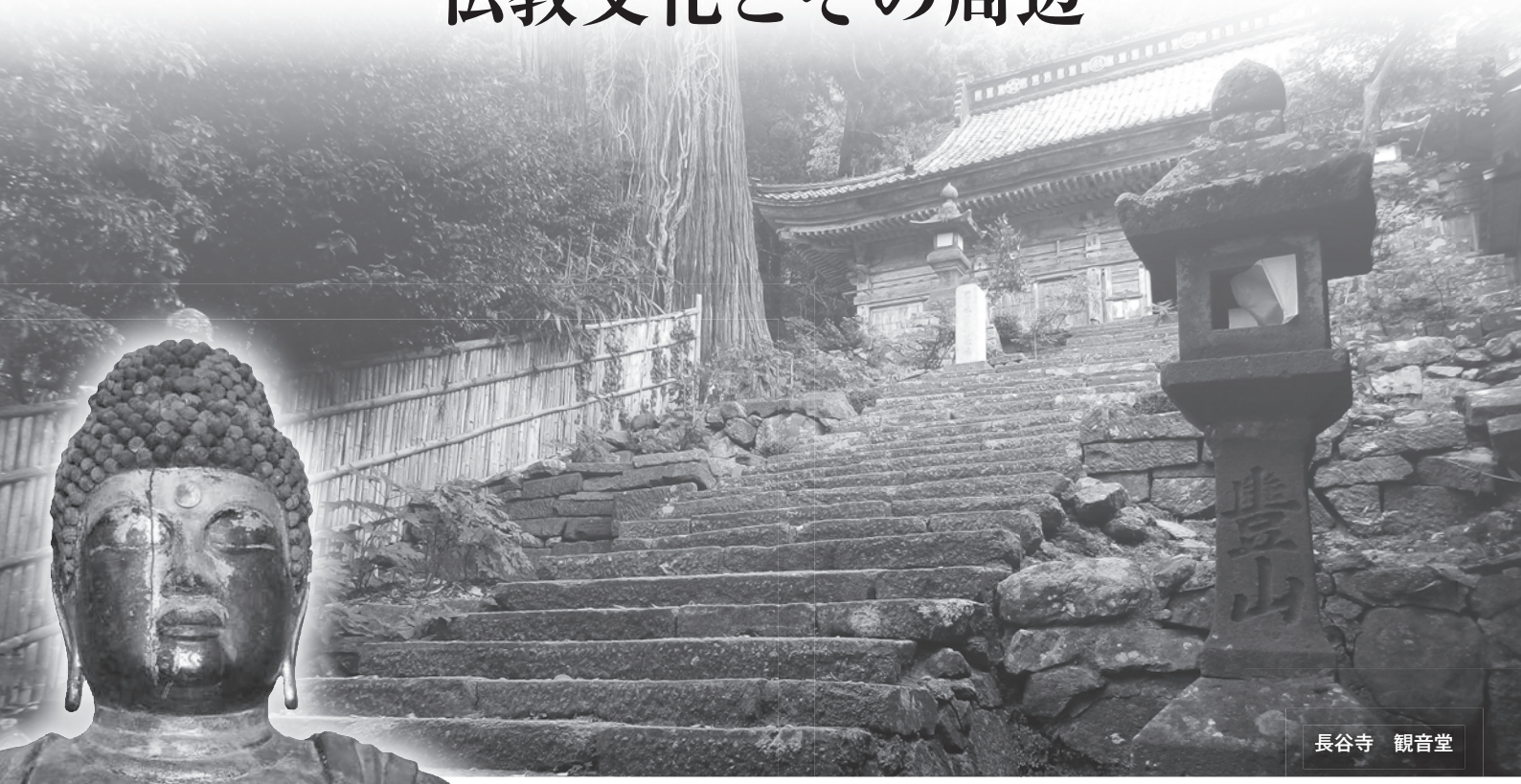
新潟大学人文学部・佐渡市教育委員会連携協定事業

東アジアにおける古代佐渡

仏教文化とその周辺



長谷寺　観音堂

佐渡国分寺　木造薬師如来坐像
（国指定重要文化財）

日　時　**2016年11月5日(土)**
午後1時～午後4時45分

会　場　**トキのむら元気館**
佐渡市新穂瓜生屋362－1

定　員　**150名**
入場無料

問い合わせ先　**佐渡学センター（佐渡博物館内）**
佐渡市八幡2041　Tel・Fax／0259－52－2447

シンポジウム

基調講演

中林隆之（新潟大学人文学部教授）	「佐渡国分寺の造営とその前後 ―東アジア地域との関係を中心に―」
荻美津夫（新潟大学名誉教授）	「平安時代の佐渡の寺社 ―その背景と諸地域との比較を中心に―」
野口敏樹（佐渡市世界遺産推進課文化財室室長）	「文化財からみた古代佐渡の仏教文化」

主催／新潟大学人文学部　　共催／佐渡市教育委員会

開　催　趣　旨

佐渡は、日本の古代国家にとって北辺の要地であり、古くから東アジアおよび北方などとの交流の窓口と位置づけられてきました。古代の佐渡では、そうした政治上の位置とも密接に関わりながら、仏教やその影響を受けた神仏習合の文化が開花しました。

今回は、奈良時代に佐渡国分寺が建立されたことの意義や平安期に国分寺の新本尊として薬師如来像が造立された事情、さらには長谷寺の十一面観音像・白山神像や清水寺の二十八部衆像などの作品群が平安後期ころまでに生み出されていった経緯とその社会的背景をたどりながら、東アジアと日本列島の文化の中での古代佐渡の仏教関連文化の特色について考えてみたいと思います。

佐渡国分寺　瑠璃堂

清水寺　本堂

長谷寺　木造十一面観音立像
（新潟県指定有形文化財）

講　師　紹　介

中林隆之

1963（昭和 38）年富山県富山市生まれ。新潟大学人文学部教授。主な著書に『日本古代国家の仏教編成』（塙書房）、「日本古代の「知」の編成と仏典・漢籍―更可請章疏等目録の検討より―」（『国立歴史民俗博物館研究報告』194）など多数。

荻美津夫

1949（昭和 24）年北海道浦河町生まれ。新潟大学人文学部教授を経て現在新潟大学名誉教授。主な著書・論文に『平安朝音楽制度史』（吉川弘文館）、「寂源と勝林院」（義江彰夫編『古代中世の史料と文学』吉川弘文館、所載）など多数。

野口敏樹

1967（昭和 42）年佐渡市（旧両津市湊）生まれ。両津市郷土博物館学芸員を経て現在佐渡市世界遺産推進課文化財室室長。主な著書・論文に「近藤福雄（とみお）と佐渡の考古学」（共著）（『新潟考古』16）、「相川街道（夷道（えびすみち））を歩く」（『佐渡地域誌研究』４）など。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。